

平成23年度「特別支援教育総合推進事業（自閉症に対応した教育課程の編成等についての実践研究）」報告書

団体名	京都府立舞鶴支援学校
研究開始年度	平成22年度

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校種	学校名（ふりがなを付すこと）
京都府	特別支援学校	きょうとふりつまいづるしえんがっこう 京都府立舞鶴支援学校

2 研究テーマ

自閉症のある児童生徒のニーズに応えるとともに、可能性を引き出し現実化する学校組織体制の構築と、社会性を育む授業の創造

3 研究の内容

(研究内容)

- 1 自閉症のある児童生徒の指導における学校組織体制のあり方の構築
- 2 自閉症のある児童生徒にもとめられる教育課程と社会性を育む授業のあり方の構築

<研究内容1>

本校は、開校当初から自閉症学級を設置し、自閉症が「質的な障害」であることを踏まえて、実践とそれをささえる学校組織体制の充実に努めてきた。

第1年次において、開校から6年間の自閉症学級の取組を整理するとともに、担任を中心に保護者や外部専門職、校内外関係機関と協働で指導を進めるアセスメントシステムや研修システムを整備した。そのシステム機能を円滑に推進するための役割を自立活動専任が行うことも明確化し、第2年次は、実践の中で検証した。

<研究内容2>

第2年次は、公開授業研修会をとおして授業改善を図り、社会性を育む授業に求められる要件をより明確に示し、自閉症のある児童生徒と自閉症のない児童生徒の教育課程の違いについて考察した。

また、自閉症に特化した指導方法について実践的研究を一層進展させるとともに、自立活動の時間や社会性に係る指導内容を、系統性の観点からまとめた。

<重点内容>

- 1 全校で取り組む公開授業研修会

- 2 社会性に係る指導内容表の作成
- 3 自閉症のある児童生徒の自立活動指導内容表の作成
- 4 支援ライブラリー（効果的なツール・教材集）の作成
- 5 自閉症のある児童生徒の事例研究

（評価の観点及び評価方法）

評価の観点

- 1 自立活動の時間における指導内容を指導内容表としてまとめられたか。
- 2 社会性に係る指導内容を系統的に指導内容表としてまとめられたか。
- 3 自閉症に特化した指導方法及び社会性を育む授業における指導技術について、知見がまとめられたか。
- 4 社会性を育むための学習グループの在り方が考察できたか。
- 5 効果的な指導ツールの蓄積ができたか。
- 6 構造化等環境構成の工夫について、知見がまとめられたか。
- 7 知的障害学級との相違を明確にして、自閉症学級の適切な教育課程に係る知見がまとめられたか。

評価方法

- 1 年間7回の公開授業研修会を通し、外部評価を行う。
- 2 個別の指導計画に設定した目標の達成状況で評価を行う。
- 3 保護者や学校評議員、教師に対するアンケートの回答により評価を行う。

4 研究成果の概要

【成果と課題】

1 年次研究を踏まえ、2 年次研究では自閉症学級のみならず、重度重複学級・知的障害学級においても『社会性を育む授業研究』に取り組むことを通して、自閉症特性を踏まえた指導のあり方を考察することができた。また、公開授業研修会として年間7回開催することにより、“社会性を育む指導”に観点を絞った授業研究システムを確立することができた。

2 年次研究の重点内容の成果と課題をまとめる。

（以下、小・中学部自閉症学級に高等部自閉症生徒を加えた群を自閉症群、小・中学部知的障害学級に高等部知的障害生徒を加えた群を知的障害群と表記する。）

1 社会性を育む授業研究の考察

合計14学級（グループ）の授業研究について、自閉症群と知的障害群の指導方法・指導内容等の特徴を比較した。

社会性の重点指導項目の改善については、「指示・教材提示のタイミング・環境等」10項目について、自閉症群では平均的に改善を図り、知的障害群では「言葉がけ」の項目の改善が多いという結果がでた。

また、事後研究会の討議の内容から、人間関係を育む場面設定や生活年齢に応じた指導内容

等、授業における指導方法・指導内容の要件をまとめた。

研究成果をもとに、特性に応じた指導方法・指導内容等について今後も授業研究を進めていく。

2 社会性に係る指導内容表『社会性MAP』の作成

『社会性』を、「地域社会において、ともに生きていくために必要な力」とし、5つの領域「人間関係の形成」「コミュニケーション」「社会生活能力」「日常生活」「余暇活動」を設定した。各領域の内容水準を、4段階「A～D」に分けて記述した。

今後、本校のキャリア教育において活用していきたい。

3 自閉症のある児童生徒の自立活動指導内容表の作成（系統性の提案）

1年次研究では、開校時（平成17年度）からの自立活動の時間の指導内容を整理し、自閉症学級における自立活動指導内容一覧を作成した。

2年次は、内容一覧から、知的障害学級との比較において、自閉症学級におけるその特徴を整理した。

自閉症群では、知的障害群と比べて、特にスキル面（生活・余暇・作業等）やコミュニケーションを題材にとりあげ、基本動作の獲得・不得意な感覚の改善・意思や気持ちの表現理解の基本等の指導を進めている特徴がある。

今後も、学級担任と自立活動専任が協働で自立活動の指導を進め、実践の中で系統性と内容を検証していく。

4 支援ライブラリー（教材・ツール集）の作成

指導目標の達成に向け、自閉症の特性を活かした視覚支援・手がかりとなるツールを開発、活用し、そのユースウェアを示した。

2年次において、ツールをさらに開発し、誰でもが使えるようにした。

5 自閉症のある児童生徒の社会性を育む事例研究

自閉症学級において、コミュニケーションや集団参加に課題がある児童生徒3名について、事例として取り上げ、指導方法、外部専門職との連携のシステムの検証を図った。

一人一人について、変容を見ることができた。